

第15回

「JTの森積丹」春の森林保全活動

トドマツ林の下刈り・植樹作業



▲トドマツ林の下刈り作業



▲寺島社長（右）と松井町長による植樹作業

6月16日、日本たばこ産業株式会社と協働する「JTの森積丹／2018年春」森林保全活動が催され、寺島正道JT代表取締役社長をはじめ、社員やその家族の皆さん、町民など約130人が参加しました。

15回目を迎えた森林保全活動は、美国川流域エリアで行われ、参加者はトドマツ林の下刈り作業や植樹作業に汗を流しました。

前回の活動で出た間伐材を活用して、午後からは「きのこのホダ木づくり」や電熱ペンで木を焦がしながら絵や模様を描きペンダントを作る「間伐材のペンダントトップづくり」など日常とは少し違う森林活動を体験しました。

昼食は、毎回積丹町産の海産物や農産物を贅沢に使用し、参加者が心待ちにしている積丹観光協会のシーフードカ

レーには、おかわりに列が出来るほどの好評でした。

「JTの森積丹」は「海を育む水源の森に」をテーマに、森林保全活動を平成23年度から行っています。当町の基幹産業である水産業を守るためにも重要な活動です。

今後もJTの皆さんをはじめ、国・道の関係機関、町民の皆さんの協力で、『JTの森積丹・海を育む水源の森』が、「北海道企業の森」のトップランナーを目指していきましよう。



▲間伐材のペンダントトップづくり

積丹観光協会会長 佐藤 勝次 氏

日本観光振興協会「観光振興協会功労者賞」を受賞

公益社団法人日本観光振興協会の平成30年度観光事業功労者に積丹観光協会長の佐藤勝次さん（64歳）が選ばれ、6月8日に東京都内のホテルで表彰式が行われました。この賞は、全国9支部14名に贈られ、佐藤会長は北海道から唯一の受賞となりました。

佐藤会長は、昭和63年に同協会理事に就任。平成13年には会長に就任し、積丹岳の伏流水を活用した「丹水」の商品化、「どっこい積丹さくらます祭り」などの各種イベントの創設など、当町の観光振興や地域の活性化に大きく寄与されてきました。

また、3大岬の神威岬・積丹岬・黄金岬で「募金」による自然環境の保護と保全活動を進める積丹町自然環境保全協議会長として、全国で高く評価される国定公園内での活動にも活躍されています。



北後志消防組合積丹支署

更なる技術向上へ日々訓練！ No.13

異なる難しい事故に備えて

北後志消防組合積丹支署（佐谷支署長・署員17名）は、6月6日、美国町の厚苔海岸で、救出困難な狭い場所からの救助を目的とした救助訓練を行いました。

訓練は、岸壁から約6m下のテトラポッド付近で釣りをして

している人が転倒し、動けなくなった状態を想定。救助隊や支援隊、救急隊を編成し、はしごや滑車、ロープなどの資器材を使い、要救助者を引き上げる『はしごクレーン』という救助方法で救出しました。

佐谷支署長は「限られた人員の中で、いかに安全・確実に

迅速な対応ができるかが一番の課題。連携力や現場対応能力、知識・技術の向上訓練で現場の糧となるよう、今後も団結して訓練に取り組んでいきたい。」と話していました。

目指せ！全国大会出場 6人の隊員頑張れ！

『全道消防技術訓練指導会』が7月21日、札幌消防学校で開催されます。その事前訓練が、6月21日、大会当日と同じ場所の札幌消防学校で行われ、同支署からも、ほふく救出訓練隊として2隊6名が参加しました。

道内の各消防本部から多くの訓練隊が集まり、全道大会での好成績を目指して厳しい訓練が行われました。



▲進入隊員への結索



3

1. 救出資器材の準備
2. はしごクレーン救出
3. 要救助者を収容



▲要救助者へロープを結索

増山訓練隊長は「全道大会に向けて、出場する6人の隊員が、限られた時間の中で訓練に臨みました。大会当日は、自分たちのベストが尽くせるように一生懸命訓練に取り組んでいますので、応援よろしくお願いします。」と意気込みを話していました。

6人の消防隊員が訓練の成果を発揮し、全国大会を目指して活躍できるようみんなに応援しましょう。

1



2

